

Gさんの場合

息子さんが知的障害を伴う自閉症（当時小2）

居住地：仙台市泉区

インタビュー日：2024年2月15日

お話：Gさん

聞き手：橋本武美

橋 今日、自閉症のお母様です。その当時、息子さんは何年生でしたか？

G 息子は小学校2年生ですね。2年生の終わりくらいですよ、3月だから。

橋 普通級とか支援学校とかは？

G 地域の小学校の支援学級に1年生から在籍してました。入学前の教育委員会の教育相談を受けた時は、「支援学校が適当ではないでしょうか」という話だったんですけど、新興住宅地で、みんなどこからか引っ越してきたみたいな感じで歴史のない町なので、すぐ支援学校に入っちゃうとスクールバスで往復するだけになるから、同年代の地域のお子さんとのふれあいが全くなくなると思って。やっぱり地域に入れてみようっていう感じで、ついていけないのはわかってたけど通わせてたっていう感じですね。

橋 様子を見ながら途中から移行する方も多いもんね。

G うん、逆はできないので。支援学校に入っちゃってから普通の地域の学校に転校するのは難しいということ。震災のちょうど1年後、小学校4年生からは支援学校のほうに転校しました。震災の3ヶ月後ぐらいには、やっぱり学校変えようかなって思って、だから翌学年は最後の年っていう感じだったんですね。

橋 それもきっかけになった感じかな？

G 震災そのものは関係ないですかね。ちょうど子どものそういう成長段階、他のお子さんたちとの差が開いてくる時期に差しかかったっていうか。そこで痛感してっていう感じですね。

橋 そっか。小3くらいから徐々に差が開いていくもんね。

G やっぱり差が……。支援学級の他のお子さんとの差もどんどん大きくなって行って、在籍しているけど、周りのお子さんとの関係性も全然うまく築けないっていうか、集団って感じじゃなくて、常に先生とマンツーマンみたいな感じだったので。下にもう一人息子がいて、震災の時3歳だったんですけど、幼稚園に入ったりとか動きが2つ出てくると、親もやっぱりしんどくて。幼稚園も時間区切られてるじゃないですか。親が迎えに行くか、スクールバスも降りる時に必ず親がいなきゃいけないっていう感じで、やっぱりそういうのを回していくのもすごい大変になったっていうのもありますね。

橋 そうだね、2人一緒にね。ちょっとした時間差があるし。

G そうなんです。地域の普通の小学校って、意外と下校時刻がまちまちなんですよ。曜日によって、この日は5時間、この日は4時間とかっていうのと、先生たちの会議があるからこの日は早いですとか、家庭訪問の時はずっと早いとか、そういうのがすごくあって。支援学校って結構パターンが一定じゃないですか。だいたいバスが14時半に出発するんだよね。

橋 近い人だともう14時40分くらいには帰ってくるとかね。

G そう。でも一定なので予定が立てやすかったり動きやすかったりするの。

橋 そうだね。支援学校は小中高と一緒にあるから、小学校の予定でスクールバスの時間を変更しますとかがなくてずっと一定だから、すごく時間が読めるんだよね。

G そうなんです。結局ね、幼稚園のバスに下の子を乗せられなかったの。小学校に長男を送迎する時間にぶつかってるので。小学校と幼稚園は近くて数百メートル離れてる感じなので、もう2人一緒に連れて出て、小学校に息子

を置いて、徒歩で幼稚園に行っただけという感じだった。で、なかなか回らなくなってきちゃった。それは震災の翌年からの話になるんですけど。震災当時はまだ3歳なので幼稚園も入ってなくて、下の子は手元にいたという感じですね。

橋 そうか。それで一緒にいて。

G 震災の時はそうですね、一緒にいました。

橋 確認したいんだけど、お兄ちゃんのほうは、障害名ってわかってました？

G 自閉症と知的障害。その震災の時はまだ中度くらいって言われてて、翌年くらいには重度っていうふうに変わりましたね。やっぱりその知能が伸びない、変わらないっていうところで。今は最重度っていうのかな。その当時はある程度の重さのある知的障害と、自閉症っていう感じですね。

橋 認定も、何年に1回とかで変わっていくもんね。

G そうですね。

橋 震災の当日は、弟くんも一緒にいて、お兄ちゃんはどこに？

G 長男は学校に行って……地震が起きた時には、放デイにちょうど着いたところ。

橋 午後だもんね。

G 他の通常学級のお子さんは、まだ帰りの会とかだったのかな。たぶん2時半ぐらいに授業が終わって、帰りの会とかやってるところだったんですけど、支援学級は……

橋 早いんだ。

G チャイムと同時に帰りの会が終わるみたいな感じだったので。帰りの支度とかも時間かかるじゃないですか。ジャンパー一つ着るのも、ランドセルにしまうのも時間かかるので、そういうところも早め15分前にスタートして、「さあ帰りの支度するよ」みたいなのもある意味で訓練っていうか。だからそれで、もうチャイムと同時に放課後デイのお迎えの車が来てて、学校からは結構近いところにある放デイだったので、たぶんもう着いて建物の中に入ってたぐらいのところですね。学校から車でもう3分とかで着く感じ。

橋 放デイに着いて、建物の中にいたくらいで。

G もう入ってて地震に遭ったぐらいだと思いますね。まだ他の学校の送迎の車とかはたぶん来てなくて、息子以外にも1人か2人いた感じだったんですけど、スタッフさんもいて、安全な中っていうか。すごい怖かったとは思いますが、安心な状況ではあったっていうか。

橋 いっぱいじゃなくて少人数で？

G そうですね。

橋 守ってもらってたんだね。

G うん、地震の瞬間に大泣きして取り乱してパニックとか、そういうのはなかったみたいですね。たぶん初めてで固まってる感じだったと思います。

橋 わかんなかったよね。

G うん。

橋 大人は大慌てかもしれないけど、本人たちはね。実はうちの息子もその時放デイにいたんだけど……

G 地震の時？

橋 地震の時。送迎中とかでも必ずいったん放デイに送迎車は戻ります、親御さんは必ず放デイに迎えに来てください、っていう……

G 震災の前からそういう話になってたの？

橋 前から取り決めがあったの。

G それはしっかりしてますね。

橋 すごくしっかりした。避難訓練とかもすごくやってくれてる放デイにいたので、そういう決まり事はしっかりあって。

G 震災前からそれがあったのは、すごいしっかりしてると思います。

橋 そのへんって、それぞれの放デイではばらばらだね。

G うちのところは、震災の直後に割ときっちりしたのはすぐ作ってくれました。他にもう1カ所通ってたところもあったけど、なかなか作ってくれないところもありましたね。それぞれだと思います、本当に。

橋 放課後等デイサービスは、支援が必要なお子さんを放課後に預かる場所だけれども、震災対応ってたぶんばらばらだね。その時は、お母さんは別にいたんだもんね、弟くんと。

G 私は、距離的にはすごい近いところの大きな商業施設で、その支援学級のお母さんの方一人と、次男を連れてランチしててだべってた。何の話をしてたかっていうと、やっぱりちょっと支援学級のね、担任の先生にいろいろ不満とか要望があって、お伝えしても先生となかなかうまく改善していけなかったの、で、年度末じゃないですか。「ちょっともう上の先生に言いに行ったほうがいいかな」みたいな相談してたの。年度替わりで、来年からもっとより良い学校生活を送って欲しくて、なんかそういうね、「校長先生に言いに行くか」みたいなそんな話を延々してたの。

橋 そのへんの話は本当に尽きないよね。支援学校、支援学級とかの先生たちも、もちろんみんながみんなうまいわけではないし、子どもたちも人それぞれみんな別々なんだよね。先生たちの中では割とひとくくりで考える方も多いけど。

G なんかね、支援学校だとまだ多くの先生が関わっていて目があるんだけど、その時の支援学級って、教室の場所も割と外れのほうにあたりして、他の先生たちの目に触れない感じだったから、指導内容とかもたぶんそもそもわからないっていうか。学校の他の先生たちも息子のことはすごく可愛がってくれたんですけど、この子に今教える内容が妥当かとか、もうちょっと教え方を工夫すればできるようになるんじゃないかとか、そういうことって他の先生からはわからないじゃない？普通のお子さんに比べてあまりにもいろんなことできなかつたり、特徴がいろいろあるから。

橋 そのへんは学校によってすごく違うよね。すごくオープンで、下駄箱を入れてすぐくらいのところに教室が最初からあって、皆さん入ってきてくださいとか、普通学級の子たちもそこを出入りをするとか、そういう学校も見たことあるし。逆に遠くのほうにクラスがあってあまり見えない、親にも見えないってことは普通の子たちにも……普通ってあんまり言いたくないんだけど、他の学級の子たちにも見えないってことだから。

G そう、わかんないし、どういう指導するのがその子に合っていて伸ばそうとしてる指導かっていうのは、他の先生たちはやっぱりわかんないと思うのね。だから「これができるようになってすごいね」って言うけど、「いや前からできましたけど……」みたいなのがあるじゃないですか。閉ざされた感じだったので、こうなんですって訴えてもなかなか先生たちにわかっていただけないようなところもあったの。……みたいなのがあって、だから12時ぐらいいからいたの。その前に下の子の音楽教室に行って、12時ぐらいいからいて、だからもう結構しゃべってたんですよ。

橋 しゃべってるとすぐだよ、時間はね。

G で、下の子がもう飽きちゃったので、その頃ガラケーだったんだけど、ワンセグがついてて、アンパンマンとかを録画したデータが入ってたの。下の子には「もうこれ見てなさい」って言ってアンパンマン見せてた。ずっとしゃべって、「そろそろ帰ろっか、でも放デイだからもうちょっとゆっくりできるよね」なんて言って、輸入食品を売ってるお店で子どもに飴を選ばせようとしてたら地震が来たんだけど、その時点でもう携帯の電源ほぼ瀕死（笑）子どもがずっとアンパンマン見てたから。本当にそれはね、終わったーと思ったんです。携帯の電池ないーみたいな感じでした。だから大型商業施設の1階で……

橋 すごい揺れて？

G 揺れました。吹き抜けとかもあって、シャンデリアじゃないけど照明も。どうしていいかわかんない、出口も結構近かったんだけど、まず頭の上から何か落ちてくると思って、子どもを抱っこしてキョロキョロしてるんだけど、揺れてる中で歩くのも大変だし、飛び出たら上から看板とかガラスが落ちてくるのかも怖いから、出るのが正解かもわからなかったし。

橋 どっちだろう、どっちが正解だろうってね。

G 何をどうしたらいいかわからなかった。それに長かったからね。

橋 でも一人じゃなくてよかったね。お友だちと一緒にだったから。

G そうですね。その方はテキパキしてるから、その方一人だったらきっと出たと思う。私に「どうする？どうする？」ってずっと話しかけてきたんだけど、私は「どうしたらいいかわかんない」って。その方もほら、一人で行くわけにいかない。おろおろしてたら、中盤でものすごいドンって揺れた時に、もう2人で尻餅ついちゃって。立ってたんだけど、立ってられなくて。

橋 1階でね。2階じゃないけど。

G すごい揺れがあったじゃないですか。立ってたのに、気づいたらもう尻餅ついて2人で座ってて。は一っていう感じ、びっくりしましたよね。そしてその大きな揺れで、輸入ショップのワイン売りの棚のワインが全部バーンと落ちて、ダクダクってワインがね、紫の小川が流れてきて、むせかえるようなワインの匂いに包まれたのはすごく覚えてますね。紫の小川。

橋 怖いよね。

G そのぐらいまでいって、ハッと周り見たら、床に這いつくばってる店員さんから、「あちらから出てください」みたいに誘導されて。もう天井のスプリンクラーから水が吹き出してるお店があったりして、電気も消えてたしって感じですね。それで揺れもちょっと収まったのかな、やっと自動ドアを開けてあるところから表に出ましたね。周りのお客さんたちもそこから出たっていう感じ。そして、パーマカラーの途中のお客さんが美容室から避難してきて、未だにあの方があのとどうしたのかすごい気になる（笑）

橋（笑）そうだよ。

G だって薬品つけたままですよ。

橋 ね。うわー。

G 戻って洗い流すこともできない、どうされたのかなって。やっぱりどんな時に地震に遭うかわからないから。

橋 ほんとほんと（笑）

G SNSとかで呼びかけてその方のその後を知りたい、みたいな気持ちになる時ありますね。

橋 お友達と車で来てたんだよね。

G そうですね。別々に車で来てて、そのお友達はいつも建物のすぐそばとか近いところの駐車場に駐める方で、出口の真ん前に駐めてたんですよ。もう皆さんが車でわーって出ようとしてるから、立体駐車場の中が渋滞してて、みんな帰ろうとして詰まってすごいことになってるんだけど、そのお友達の車は結構出口のそばだったからスッと出ることができて、そのまま息子のいる放デイに拾いに行っておけるって言うてくれたので、行ったんですよ。お友達は息子の状況とかをよくわかっているの、「たぶんお家に帰ったらもうすごいことになって危ないから、息子さんを連れて帰ると危ないから、放デイで息子さんの無事を確認したら1回お家に戻ってまた夕方に迎えに来たら？」みたいなことを提案してくれて。

橋 片付けてから。

G うん、そうかなとかって思いながら放デイに行ったんですね。で、息子は取り乱してはないですけど、もう呆然とってというか。あと行ったらちょっとガス漏れっぽい匂いがしなくもないみたいな感じもあったし、私は車の運転もあまり得意じゃないから、危なくても先に手元に置きちゃったほうが気が楽だと思って、「やっぱり連れて帰ります」って言って。息子を連れてきて、そのお友達の車で家まで送ってもらおうと思ったら、商業施設近くを通った時に、私その日たまたま入口の真ん前に車を駐めていたので、「やっぱり車持って帰るわ」って言ってそこで降りた。買い物に来る人ももういないので、本当はいけないけど入口から出させていただいて、家に帰ったんですけど、信号も消えてて怖かったですね。

橋 でも自分の車で子どもたちと一緒にしたのは、そこでちょっと一安心ね。

G 一安心。小学校の前を通過して帰ったんですけど、迎えに来てるお母さんたちもいっぱいいて、帰ってる親子もいたり、校庭にいっぱいお子さんたちがいて、もう大混乱してる感じ。聞くと、小学校の昇降口の下駄箱が倒れちゃったらしいんですね。それで靴が履けなくて、でも上履き履いてるじゃんと思ったけど、金曜日だから持ち帰らせるために、もしかしたら教室で靴入れに入れてたとかで、グラウンドに裸足で逃げた学年がいたって言って。雪降ってきたじゃないですか。

橋 そうそう。

G 最初子どもたち裸足だったって。小学校の1、2年とかの子かなという話で、雪降ってきて、ジャンパーは廊下のフックにかけてるけど、それを着る余裕もなく子どもたちは外に出させられたから、寒いし裸足だしみたいな感じ。それで先生たちがジャンパーをわーって取りに行ったとか、毛布持ってきたりとかってということで、もう泣いてる子もいたし……みたいなことは聞いて。とにかく自分の息子がその大混乱に遭わずに済んだことは、この子はなんて強運なのかな、みたいな感じで。

橋 車もね。2人の車がそういう位置にあったっていうのがね。

G そうなんです。私は滅多にそんなところに駐めないんだけど、たまたまその日、お昼時だから混んでるのになぜかそこが空いて。で、スーパーの前とかにすごい人がいっぱいいたんですけど、乳製品とか日持ちしないものを格安で売ってたのか配ってたのか、そういうのがあったらしく、惜しいことしたなと（笑）

橋 ふーん、早くそういうことをしたところがあったんだ。

G 停電になっちゃったから、冷蔵庫が効かないからだと思うよ。コンビニの前もすごい人、車がわーわー来てて、でも私は何でそこに車がいっぱい来てるのか、その時はわからなかったんですよ。乾電池とか食べ物とか水とかじゃない。

橋 バツと機転が効く人は、買ってしまおうと。

G もうすぐ買いに来て。コンビニの前はすごい渋滞になって。1カ所、信号もついてなくてビュンビュンしてる道路を渡らなきゃいけないのが本当に怖くて、窓からこんな手出してこうやって渡った。で、やっと家に着いたんですけど、家はそんなに、まあいろいろ物が倒れたりはしてますけど、想像してたよりはそんなになってなくて、家の前の電柱が倒れてたら家潰れてるよなーって思ったけど、電柱もちゃんと立ってたし。家ではおばあちゃんが一人でいたんですけど、特におばあちゃんの部屋もタンスが倒れたりとかもなくて、家の中はそんなに大惨事にはなってなかったんですね。

橋 おばあちゃんも大丈夫？

G おばあちゃんも大丈夫で。作り付けの食器棚とかって、地震対策があるので、開かないようにかかるようになって。あと「ふんばる君」ですね。タンスの下にかませるプラスチック状みたいな、あれものすごい効果ありました。おすすめ。

橋 やっといてよかった。

G そう、私も実家の親からもらって、「やっつけよ」って言われたので、「えー」って言いながらつけたんですけど、本当に食器棚倒れなかったです。

橋 そうかー、食器棚倒れてたら家はすごいことになってるよね。中ももちろん割れちゃうだろうし。

G そう。そう思ったら本当に……

橋 一枚かますだけでね。

G そうなんです。本当にびっくりしました。

橋 やっといてよかったね。そしたらおばあちゃんもいて、お父さんもいるから、5人家族？

G 5人ですね。

橋 おばあちゃんも大丈夫で、そのあとは？

G そのあとは、私が開けばなしにしてた廊下の収納庫とかから、ガラスのボールが落ちたりとかしてたので、明るいうちに片付けないかと思って、掃除機が使えないから何かのテープとか。危ない割れ物はガラスのボールが何個か割れたくらいで、片付けて、そしてとにかくありったけの布団を2階から下に降ろして、リビングを寝れるようにした。もうここで寝るって、2階で寝るの怖いなと思って。

橋 みんなでここに。

G まあおばあちゃんは、おばあちゃんの部屋が1階にあったので。子どもたちともう川の字で寝るように、布団をとにかく降ろしましたね。明るいうちにとまって、そこまでやって。そして水が出たので、家に帰ってすぐお風呂の上いっぱいまで水を溜めました。赤錆も出てなかったので、本当にそれはツイてたんですけど、とにかく水を確保できたので、全然給水とかには並ばずに済んだんですね。

橋 ガーってお風呂に溜めて、あとは溜められるものに。

G 大きい鍋とかにも溜めたかな。あとうちは水の備蓄は結構あって、ペットボトルの2年ぐらい賞味期限が切れたやつを全部捨てないでおいたんですよ、備蓄用のやつ。手洗ったりとかには使えるかなと思って、結構な量あった。もう主人に「邪魔だからどうにかしろ」って怒られながら。うちは主人が公務員なので、災害が起きたらまずもう家には帰ってこない、行かなきゃないっていうことで「あなたは地震の時にいないんだから口出すな」って言って。本当に邪魔だったんだけど、本当にとっておいて良かったと思った（笑）

橋 一軒家？

G 一軒家です。そうですね、スペースがないととっておけない。

橋 マンションとかは収納がないからね。

G 一軒家で、そして子ども部屋にする部屋とかは、まだ子どもがちっちゃくて物置とかになって全然使えた状態だったので。

橋 物を置いておけたのね。

G そうですね。だから給水の心配はほぼしなくて済んだ感じですね。電気はつかなくて、ガスも止まって、お水だけが。

橋 お水は溜めて。携帯は充電切れ（笑）

G そう充電切れ（笑）でも水はそのあと1回止まったんですよね。復旧工事のために止めますっていう通知が町内会経由で回ってきて。町内会のあれにあたってたら大変でしたよね、その時ね。

橋 うん、そういう方もいるよね。

G なので、水はそのあと翌日から止まって、5日後くらいまでは止まっていたんですかね。でもとりあえず水は大丈夫でしたね。やっぱり水……食べ物もだけどね、水がないと本当に困りますよね。

橋 そうだね、うちもすぐ溜めた。うちはマンションなんだけど、みんながダーってお風呂に溜めたはず。まだ出る時にね。

G タンク、みんなでわーって溜めたら、空っぽみたいな……。

橋 そうそう、うちの息子も地震の時はやっぱり放デイにいて、大学病院の近くの放デイだったから、上りの道がものすごいことになって、迎えに行くのにすごく時間がかかったし、着いたらもう夜になってみたい感じで、やっぱり信号全部止まって。道路を車が埋め尽くして、だけど途中渡りたい人とか右折したい人とかそういう人は、やっぱりこうやって窓から手出してとか、一生懸命「渡らせてー」ってアピールとかをしながら、お互いに車でちょっとパッシングし合ったりして、なんとか着いた。

G 意外と事故とかは、あの状況ではなかったですね。

橋 そう、逆に進めないから事故とかはならなかったんじゃないかなっていう気がする。すごい遅々として進まずだった。

G みんな何時間もかかって帰ったみたいですね。

橋 で、食べるものも備蓄も結構あったんだね。

G 食べるものはね、あんまりなかったっていうか、カンパンとかが全然役に立たなかったの。子どもたちはあれをご飯として認識しないっていうね。

橋 硬いしね。

G そう、おばあちゃんまで。当日はね、お昼にもうご飯を炊いちゃってたの。おばあちゃんが食べるからと思って、夜の分と昼の分を一緒に炊いちゃってたから良かったって思ったけど、もう冷え切って、なんかね、もう冷たいご飯だった。

橋 チンできないもんね。電気がつかないから。

G 懐中電灯で照らして、白いご飯にふりかけと……何食べたんだろう、ふりかけご飯だけだったかも。

橋 でもカンパンよりはね。

G うん。翌日からカンパン出して、子どもたちに「ご飯だよ」って言ったら、キョトンみたいな。ご飯？これ？みたいな感じです。あのキョトン顔は忘れられないです（笑）

橋 かじってはみた？

G 下の子は食べたのかなあ。でも長男がやっぱりね、食べなかったかな。あと備蓄用のアンパンマンクッキーの缶とか、マリービスケットとかあるじゃないですか。何かはあった。キャラメルとか。こんなのいくらあっても備蓄とは言わないんだなってね（笑）、思いましたね。

橋 うちもクラッカーとかを缶で買っておいた。

G それで安心してたけど、本当に災害が来たらこういうんじゃないんだって。やっぱりアルファ米とかね、そういう。

橋 そうだね。

G それからは、やっぱりある程度備蓄するようになりましたよね。アルファ米とか、インスタントラーメン系、白

石温麵とか。

橋 ああ温麵。温麵大活躍だよ。考えてみたらさ。

G あれって短いからすぐ茹で上がるし。

橋 そうそう、置いとくのにもコンパクト。

G そう、場所とらない。だからそれからやっぱり備蓄の食料は、見直して考えて。本当に3ヶ月とか半年おきとかで点検してっていうのは、割とやっていますね。

橋 えらーい。

G 賞味期限切らしちゃったりするんだけど、でもなるべく食べれるものを……みたいな。やっぱりあの時の教訓というか。子どもたちの食欲もほら、その頃より増してるから。

橋 そうだね。まずはとにかく子どもたちがちゃんと食べられるものを持ってね。

G そうそう、プラス、お腹が満ち足りるとちょっと甘いものがあったら嬉しいから、袋菓子みたいなのを備蓄するようにしてますね。

橋 甘い物をね。そのあとなかなか買い物が自由じゃなくなったから、ちょっと食べさせてあげたいってね。

G ちょっとでもあると全然違う。

橋 うちはカセットコンロがあって、ボンベもいっぱいあったの。だから、こんなものって思っていたけど、あー良かったって。

G そう、カセットボンベが切れてて。でも切れてると思ったら仕舞い込んでたのがいっぱいあったんだけど。もうずっと前から、結構地震多かったじゃないですか。

橋 来るぞ来るぞって感じだったね。

G 息子が生まれた年だから、2003年かな、結構大きい地震あったじゃないですか、宮城で。6月ぐらいかな。で、やっぱりカセットボンベを買わなきゃと思って買ってただけど、すごい奥に仕舞ってたから見つけられなかったし、忘れてたのね。無いと思ってて。

橋 その時は。

G そう、あとから見つけたの、埃かぶってて、何だろうって出したら、あったんだーうちにみたいな。

橋 僕はここにいるよみたいな(笑)

G そう。で、その日の夜は、主人はもう待機かかっちゃって帰れない。でも実際には仕事はなかったらしい。

橋 でも待機かかっちゃうんだよね。

G 翌朝、結構近くに住んでる同僚と一緒にタクシーとかで帰ってきたんだけど、買い物に行くって言ってホームセンターに行ってくれたんだけど、やっぱりカセットボンベは買えなかった。乾電池とかも、もうそういうのは売り切れてて。

橋 みんな買ってしまったのね。

G うん。何買ってきたんだろ。こうやって回す、電気起こす……

橋 手回し充電？

G ……のついた懐中電灯、ラジオとかそういうの。でも一向に……携帯充電できると思ったら全然。厳しかった。

橋 ね。うちも手回し充電の懐中電灯とラジオがくっついたのを置いといたけど、あーこれをやり続けなきゃいけないのかーって。

G そう、全然ですよ、あれね。

橋 懐中電灯もいっぱい買っというたから、他のをいっぱい買っというて良かったと思った。

G うち直前にね、オートボックスだかジェームスだかで、景品でちっちゃい懐中電灯をもらったの。ふーんって車に置いてただけど、やっぱりおばあちゃんは別の部屋に寝てるし、おばあちゃんがトイレに行く時の懐中電灯とかがないなって思って、あーあれがあるって車に行って、あって良かったよねって。こんなものでも役に立つと。で、おばあちゃんに「トイレ行く時用の懐中電灯はこれ使ってね」みたいな感じで。夜は一応ある程度は乾電池があったのかな。でも一番大きい単1？あれは在庫がなくて、でもラジオのついた懐中電灯があって、ラジオつけたんだよね。そしたら夜に、すごい、その津波のニュースなんだけどもう、なんかもう頭に入ってこない、あまりによくわからなくて飲み込めなかったですね。で、やっぱり電池の在庫がないから早めに寝たのかな。もう一睡もできなかったです

よね。一睡もできなくて、朝4時に、本当にね、いつもとだいたい同じ時間に新聞が来たのはすごい感動した。

橋 そうだった。で、写真が……。

G そう。

橋 ねー。

G 4ページくらいの新聞だけど。

橋 あ、ちょっと今ぞわっとした。

G うちには特に、印刷工場から結構近いじゃないですか。たぶんあその工場地帯に河北さんの印刷工場があって、うち結構近いから、本当にたぶん時間的にはいつも通りぐらいに来たのね。

橋 そうかぁ。

G カタン……って。ああ新聞だ、みたいな。

橋 新聞来るとは思ってなかったね。

G ね、こんな時に新聞来るんだって、びっくりしましたね。

橋 ね。

G 夏に「むすび塾」で河北新報さんの社屋に行った時、あの時の震災の翌朝の新聞が保管してあるのを見た時に、ぞわって来ましたね。これだったこれだった、みたいな感じで。

橋 でもあの写真、なかなか飲み込めないっていうか。

G 飲み込めなかった。あまりに……何百遺体？は？どこの国の話だろうみたいな、飲み込めなかったですよ。

橋 うちもそうだけど、津波が来てない地域の方たちにとっては、何が起きてるんだろうって。

G テレビとかのニュースも全く何にも見てないですね。せっかくのワンセグも。

橋 ラジオで言ってたけど、やっぱり現実として捉えられなかった。

G 捉えられなかったですね。写真見てびっくりしたのを覚えてますね。

橋 でも報道ってすごいね。新聞ってすごいですね。

G すごいなぁと思った。

橋 ラジオもそうだけど。ラジオにはすごく励まされた。私、アンパンマンの曲とかも、号泣しながら聞いたし、すごく励まされて。

G 他の地域の方とか、そのアンパンマンの話ってご存じないから……

橋 ピンとこないかもしれないね。

G 本当にそうだったんだって言われたことある。え、アンパンマン？みたいな。

橋 私はラジオにすごく助けられた。新聞もやっぱり驚いた。新聞が届くっていうことが。

G ラジオは結構あの時みんな見直したと思いますよね。ラジオの重要性というか、できることというかね。

橋 じゃあ次の日、お父さんが買い出しに行ってくれて？

G で、また昼に仕事に行くって言って。

橋 行かなきゃいけないもんね。

G 泉中央まで送ったのかな。信号ないけど、まぁ皆さん整然とね、交差点とかはどうにか譲り合って、怖い思いはせずに何とか家には帰って来れたのかな。そのあと、地震の時に一緒にいた方、お家も町内なんだけど、その方のところに「その後無事だよ」みたいな感じで訪ねて行ったら、「中学校でアルファ米配ってるらしいよ」って教えてくれたの。たぶん中学校は一応避難所も開設したじゃない？小学校かな。で、「アルファ米を配ってるって近所の方が言ってたよ」って言うから、うちはほら、カセットボンベがなかったから、その時は食べ物をとにかくどうしようと思ってたから、よしって言って、子どもたちを乗せて中学校に行ったの。そしたら校門のところにとまたま立ってた先生が、私の大学時代の友達なのね。学校の先生になった人がいて、たまたまその近所の中学校にその時期は赴任してて。その彼女も子ども3人いるのに……

橋 女の人なんだね。

G 女の人。子どもが3人いて、震災の翌日に仕事しなきゃいけないの大変だなと思って。だってその時まだ一番下のお子さんがうちと同じぐらいだから、3歳4歳ぐらいかな。で、上は小学校に入ったかなくらいの3姉妹を育ててる感じだったから、「子どもたちはどうしてるの？」って言ったら、「近くに叔母さん一家がいて見てくれてる」と

か言って。「アルファ米あるって聞いたんだけど」って言ったら、アルファ米はないけど、差し入れみたいな、差し入れっていうか持ち寄った方がいたみたいで、「笹かまがあるから持ってきてあげる」って言われて、笹かまをね、友達が4つぐらい持ってきてくれたの。「ありがとう」って言って子どもたちに渡して、駐車場に車停めてる間に、子どもたち全部食べちゃった（笑）

橋 だってぺろりだよ、笹かまなんてぺろりだよ（笑）

G ペロり食べちゃって、振り返ったらなかったみたいな感じ。

橋 美味しかったと思うよ。

G そして、一応小学校も避難所やってたのかな。担任の先生に一応挨拶というか、「無事です」って顔出したら、担任の先生がね、他の先生に分けてあげるっていう事でカセットボンベを2本持ってきてたの。他の先生に渡そうとしてる時に、私が反応してしまった。「あー」って。今朝も主人が買えないで戻ってきたから。そしたら先生が1本譲るって言うてくれて、「わーありがとうございます」とか言って。本当に本当に助かった。冷凍ご飯をそれでおじやにして食べた。本当に助かった（笑）

橋 あったかいものが食べれるってこういうことなんだって思うよね。

G 本当に助かった。そう、カセットボンベがあれば、やっぱりある程度煮炊きがね。

橋 お湯も沸かせるし。

G そう、主人はわけわかんなくてパスタとか作り出しちゃって、水あるからってパスタ茹でてる（笑）

橋 それはどの味で食べたんだろ。

G ソースとかあったのかな。

橋 パスタソースとかあったの？

G あったのかな？忘れてしまったけど。

橋 ふふふ（笑）パスタかい、って。

G パスタ茹でてるよ、と思ってさ。その鍋を洗うのに水使うんですけど。主人はお昼とかはどうしてたんだろ。お弁当は持たせられないから、街の中のコンビニとかで、たぶん一人何点みみたいな制限がある中で買ってたのかな。あんぱんとか甘いパンが買えた時は、それを子どもに持って帰ってきてくれたんで、優しいじゃんみたいなのを覚えている。ろくな食事食べてないよね。みんな食べ物を持って行けるとは限らない感じだったからね、たぶん。主人は、震災直後は街の中の避難所に行ったりする仕事があったみたい。

橋 巡回しなきゃいけないようなお仕事になったのかな。

G ではなくて、避難所の運営とかを最初やってたんじゃないかな。で、私の両親が多賀城にいるんだけど、まだ携帯の電波が通じにくくて、全然連絡取ってなかった。多賀城でも結構内陸のほうだから、全然大丈夫だろうと思ってお互い何の連絡も取ってなかったのね、電話も通じないし。そしたら主人が街の中の割と電波状況の良いところから私の家に連絡取ってくれたりとかして、無事は確認できてたんだけど。そのあとだんだん落ち着いてくると、避難所ってほしい学校なので、先生とかその職員の人員を配置するような係になったのかな。自分が避難所に行くっていうよりは、人のやりくりをするような。

橋 運営班だったのかな。

G うん、そういう係になったのかな。ある程度お休みとかは取れてたので、そんなにまあ大丈夫。

橋 お父さんは大丈夫。

G 大丈夫。でも通勤がね……通勤だ。

橋 自転車？

G うんとね、そうそう、最初は地下鉄が八乙女から止まっちゃってたから……違う、台原？地下鉄すぐ動かなかったんだ。

橋 あれ、地下鉄動いてたの？

G すぐは動かなかったんだっけ？

橋 うちの地下鉄とか使わないので。

G 地下鉄は動いてからも、結局八乙女がひどかったから、泉までは行かなかったんだよね。

橋 そうだ、八乙女、黒松あたりで、割と地盤がやばいところがあったんだね。

G そうそう。10日後ぐらいに、学生の時から知ってる、家族ぐるみで交流のあるご家族が「オール電化だからお風呂沸かせるから入りにおいで」って家族で招いてくれて。やっぱりご近所になかなかそういう関係のいないし……みなさん普通のお子さん、普通のっていうか……は、お互いそういうことやってたのよ。

橋 わかるわかる。

G うちの団地は新しいから、オール電化の家って結構あって。

橋 そうなんだ。

G お友達をお風呂入れたりと、そういう行き来はたぶんあったんだけど、うちはほら、子どももとてもよそのお宅に連れて行ける感じではないので、諦めてたら、昔から知ってる家族が……

橋 子どものことをわかって。

G うちの主人もそっちのご夫婦もみんな知り合いで、声かけてくれて、もう本当にありがたくて、お風呂借りに行った。そしてもうお風呂に浮いた垢の量といたら……。よそのお宅のお風呂でもうプカプカ垢が浮いて。

橋 ごめんなさいってね。

G もう一生懸命汲み出して。帰りビールまでもらって帰ってきた（笑）

橋 あはは（笑）うちの場合は、そんなに近所でもないけど、「プロパンだからお風呂おいで」って。そこも自閉っ子のおうちっていうところがあって、お互いにわかってるから、ありがたいって。歩いて25分くらいの微妙な距離だったんだけど。帰り寒いーと思ったけど、厚着してくればいいやって。やっぱりね、そのお風呂が大変なことになって、垢がね。

G みんな言ってたね（笑）

橋 うわーって。だけど、もうありがたやって。本人がババって行っちゃうから、ダダダダー、待つて待つてみたいな感じで、裸ん坊を追いかけるみたいな感じで行ったら、栓を抜くの私忘れちゃったのね。それを家に帰ってから気がついて……

G あのまんま置いてきちゃったって。

橋 そうそう！うわー何てことをしたんだろうって、連絡して「申し訳ない、本当にごめんなさい」って。でもお互いにわかってるから、「全然いいよ、またおいでー」って言ってくれたけど。

G ねー、ありがたい。

橋 やっぱりそういう方のおうちでないね、うちはとてもじゃないけど連れて行けなかったから。

G うちのあたりはライフラインが止まったくらいで、まあ液化化とかもあったんで、ちょっと傾きの出たお宅とかは実際あったんだけど、生活そのものは割と元の感じには戻ってきて。放射能とかもあって子どももなかなか外で遊べない感じだったけど、お互いの家が親しいとね、行き来したりとかっていう感じで子どもたちも遊べてたみたいなんですよね。けどやっぱりうちは……その一緒にいたお母さんのうちのお子さんは自閉じゃないから、そこまでよそのお家に行って困るとかっていう お子さんじゃないけど、うちからはやっぱり行けないし、本当に閉塞感がね、ありましたよね。

橋 そういう時でも遠慮しちゃうっていうか、知られたくないっていう。うちはそういう大丈夫な人じゃないからーって、なんか見せたくないような部分もたぶん心の中にはあって、ご迷惑をかけたくないって。そのあとのお付き合いとかも考えたら、そういう思いを自分もしたくないし、ご迷惑もかけたくないとかってというのが、たぶんあったんだよね。

G みんな若干ベースがイラついてるようなところだから、息子が何かやらかせば、やっぱり火に油注ぐ的な感じになっちゃう。だから通った放デイが割と早くに復帰というか開けてくれて、ただ送迎はできないし、お昼ご飯は持参になるんでそれでよければ来てくださいっていう感じで言ってくれたから、それでやっとスーパーに並んだりとかはできるようになりましたね。ありがたいなと思って、本当に。地震の後の安否確認みたいなのも、息子が通るところではだいたいどこもあったっていうか、こんなに確認してもらえるんだ、みたいなね。息子がつながってるところがあるとありがたいんだ、みたいなことは、すごく思った記憶がありますね。

橋 放デイもいろいろ、被害とか。だって結局みんなが被災者だから。うちも鶴ヶ谷の放デイは早めに開けてくれて、ただやっぱり送迎はできない。でも親御さんが連れて来てくれたら、食べ物もお弁当なりおやつなり持って来てくれればそこで食べさせるから、ってやってくれたから。

G もしかしたら時間も少し短縮だったかもしれないけど、でもでも本当にありがたい。

橋 助かったよね。

G その時間しか動けないから。

橋 そうそう。

G それでやっと。近所のスーパーも店の中の損傷が結構ひどかったから、青空市みたいな感じで、店の前で、それも日本全国の産地の野菜ですよ、普段見ないような。あちこちからかき集めてくれた……かき集めたのかわかんないけど、野菜とかやっと買えたみたいな感じですよ。何日ぐらい経ってたんだろう。家のあたりは普段みんな車で移動してて、買い物もみんな車とかでしてるけど、あの時はみんな車が使えないから、そのこの団地のメインの坂道みたいなところをいっぱい人が行き交ってて、スーパーを目指してみんな歩いてて、すれ違って「今日牛乳売ってたよ」「早く行ったほうがいいよ」みたいな、なにになに売ってたよーみたいなそういう交流があったりして。しかもなんかほら、みんなすっぴんだし（笑）

橋 うん（笑）

G コンタクトレンズ使えないからメガネだし、みたいな感じですね。でも歩いて交流するのを見て、人間って本来はこうなんだろうなみたいなことをね、すごく思いましたよね。

橋 あの時、なんとなくの助け合いがみんなあったよね。あちこちでね。

G 震災の2日くらい前に、前震みたいな地震があったんですよ。

橋 あったっけ？

G 2日前のお昼くらいに、変な揺れ方……

橋 あーそれは覚えてない。

G 振動だけ感じて、私は台所に立ってたんだけど、家の前に佐川急便とかクロネコのトラックが停車してふかししてるような振動に感じて、その大きいみたいな、カカカカって振動で、なんだろうなんだろうと思ったら揺れ始めたっていう、ちょっと変な地震、変な揺れだった。

橋 そうなんだ。震度はそんなじゃないけど、ちょっとあれ？っていうのがあったのね。

G そう、嫌な揺れの地震だなんていうのがあって。

橋 私全然覚えてない。

G その地震はたぶん、釜石とかではその時も、子どもたちがバーって自分たちで走り出してっていうのとかあって、ちょっとニュースになってたかも。

橋 「てんでこ」ね。

G それがあったから、それこそ釜石のお子さんたちはパッと行けたのかなって。

橋 じゃあ震源はそっちのほうだったのかな。全然覚えてない。

G 割と嫌な、体験したことのない感じ、揺れのタイプが違って気持ち悪くなって思った。あれはその前兆だったのかなっていう。その時息子は小学校で、生活科かな、スーパーにお買い物に行こうみたいな授業をしてて、スーパーにいらしいですよ。そこで顔馴染みになった店員さんで、すごい息子のことを気にかけてくれる方がいて、震災からだいぶ経ってからかな、「息子さん（大震災の2日前の）地震の時ね、ここにいたんだけどね、落ち着いてたよ」とかって言うてくださった。あ、気にかけてくれてるんだって思って。その店員さん、震災のあとの青空市みたいな時ね、牛乳1家族1本とかってなってる場所「お母さん、いいよ2本買って」とかって言うてくれて。そんなに牛乳がすごく必要だったわけじゃないけど、せっかくだからありがたく買わせていただいた。ありがたいなど。

橋 その時さ、乳製品は本当に手に入らなかったから。

G 乳製品と、豆腐とパン。

橋 パン。そう、パンがねー、食べたかったの、うちは。

G そう。私ね、ホームベーカリーが家にあるんだけど、ドライイーストがなかったのね。だから横浜にいる妹にドライイーストが手に入ったら送ってって言って、送ってもらった。で、パン焼いてたけど、やっぱりそれを人様に差し上げられるかっていうと、そんなにね。バターとかはなくてマーガリンで、そんなに美味しくもないから、なんか人様にあげるにはなあって思いながら食べてた。

橋 トイレのことでちょっと困ったんだね。

G 水と電気が復旧するまで4、5日かかって、ガスはもっと1ヶ月近く止まってたんだけど、お水が出ない間のトイレのことで。日中は家に私とおばあちゃんと息子2人が4人でいて、それで水は一応備蓄があったので、トイレの……本当はダメなんだろうけど、タンクに入れて流すっていうのをやってたんだけど、やっぱり水がいつ出るかもまだ全然情報がなかったから、お風呂に汲んでた水も、これで何日もたせるとかがわかんないから……

橋 いつ出るか分かんないしね。

G そう。だから、4人のおしっこを全部流しると大変だから、誰かが大きい用を足したら流そう、それまでは溜めておこうということにしたんですよ。そしたらやっぱり匂いがね、結構……。放射能が入ってくるからって換気扇も止めてたし。で、匂いが臭かったから嫌だったのか、息子がトイレじゃない家中におしっこをすしたんですよ。洗面所の手洗いボールにしたりとか。

橋 えー。乗って？

G 現場見てないからわからないんだけど（笑）あとお風呂場でしたりとかね。お風呂場もほら、水が出ないからお風呂場に足を踏み入れないから、半日1日発見できないと匂いが落ちなくなったり。ベランダにしたりとか、掃き出しの窓開けて窓からしたりとか、考えつく限りのあちこちでおしっこをし始めて、どうしようと思って。

橋 でも困ったんだろうね。

G うん、本人もね。

橋 今までの僕のトイレはこうじゃなかったと思って、困ったんだね。

G うん、今までそういうことはしたことがなかったから、どうしようかなと思って。電話は復旧してたのかな、それで実家の母にそんな話をちょっとしたら「書いて伝えるとか言ってなかった？書いてみたら？」みたいに言われて、ああそうだと思って、苦し紛れに「大きな地震が来てお水の工場が壊れました」って、建物にヒビが入ってる絵を描いて、「おじさんがいま一生懸命直してます」ってツルハシみたいな棒人間描いて、「直ったらお水が出ます」って書いたら、何で水が出ないかっていうところにやっと納得がいったみたいで、それをしたらスッと直ったっていうか、あちこちのおしっこがスッとおさまったんですよ。

橋 そういうことかーって思った。

G うん、こんなに効果あるの？ってびっくりした。よっぽど本人も困ってどうしようもなくてやってたんでしょうけど。書いたら伝わるっていうのをそれでよく実感したっていうか、まあわかってはいたけど……

橋 ストンとね。

G うん、やっぱり本人は知りたかったんだなと思って。でも知りたいっていうことも伝えられなかったから、説明をしてあげなきゃいけなかったんだなっていうのがわかって。地震当日の夜に息子は2時間ぐらい泣き叫んでたんだけど、その時は、怖かったからかな、やっぱり地震怖かったんだなーって思ったけど、もしかしたら地震そのものの怖さよりも、夜になっても電気がつかなくて家中真っ暗、トイレも真っ暗、ご飯は冷たいご飯だけ出されて「これ夜ご飯よ」って懐中電灯の下で食べる、いつもの2階のお布団に寝れなくてリビングに布団敷き詰めて合宿のように寝るみたいな、いつもと何もかも違う状況が突然やってきて……どうしてかっていうのは、大きい地震が来たんだから黙っててもわかるでしょって思ったけど、わかってなかったんだと思って。そういう、電気つかないとか、また揺れたら怖いからここの部屋に寝るよとか、そういうことを丁寧に教えてあげるべきだったんだなって。十数年経ってから、かわいそうなことしちゃったなって……。夏に「むすび塾」でしゃべった時に、自分で今のトイレの話しながら「あ、この日の夜にそれを説明してあげれば良かったんだ」ってわかった次第です。

橋 そうだね、怖いのもあるけど、「困った！教えて！」っていうのも入ってたのかもね。

G そう、「教えてー」だったんだなと思って。

橋 でもその時は、母もいっぱいいっぱいだしね。

G 母もわかんなかったし、大きい地震があったんだからわかるだろうっていう部分も。こんな状況だし……。

橋 当然ね、わかるでしょうって。

G うん。思ったけど、そういうことなのかなって。知的障害はもう今は最重度って言われて、理解できないかもしれないけど、でも思い出した時にはいろいろ状況を話してあげるようにはしてるけど、やっぱり忘れがちで。これこれこうなんだよって後から気づいて教えるような感じですよ。

橋 余裕がない時ほどね。

G そう、習慣になってないっていうことでもあるし、だから書いて伝える……。

橋 全然やってるほうだよ。

G やってるほう？

橋 やってるほうなのよ。これでお話聞いている方たち、話しながら思い返して、あ、そういうことだったのかとか、ああやっぱり日頃もっとできることあるとか。

G 日頃やんなければダメ。突然災害の時には絶対受け入れられないから、日頃やんなければ何もかもダメだっていうのが……。避難訓練とか、非常食が食べられるかどうかとか。

橋 食べ物は、支援学校で役員やってる時に、みんな自分のリュックに、個々でその子が食べられる物とか、その子が落ち着けるものとかを入れて置かせてくださいとかってやって。当然カンパンとかは学校にあるけど、食べれる子何人います？っていうね。そんなことをしながら、うちも食べれるかな、試してみようとか、カロリーメイトとかはモソモソするじゃない？うちの子は緊張すると水分がとれなくなるタイプだけど、どのくらい食べれるか試してみたりとか。やっぱり水分で飲めないから、うちはウィダー・イン・ゼリーをね。

G うちも入れた。

橋 ゼリー飲料をね、これがないと水分とれないんだって再確認してそれを入れる。水ももちろん入れるけど、飲めないなって。

G 私は鮭の缶詰とか入れてた（笑）だってお菓子じゃ腹にたままないよと思って、鮭の中骨缶とフォークとか入れてた（笑）

橋 それは初めて聞いた。さすがに鮭缶は初めて聞いた（笑）

G だっておやつじゃあお腹に溜まんないよと思って、鮭缶とか焼き鳥とか入れてましたよ、私。こういうもの食べなきゃと思って。でもたぶんベタベタになるからウェットティッシュも入れたっていうね（笑）でも大事ですよ。光明支援学校の先生たちが夏休みに、ペーストとか刻みのお子さんのご飯が非常事態で作れるかっていうのを試して……。その時いましたっけ？

橋 もういない。

G なんかね、お子さん連れて遊びに来たら？みたいに言われて行ったんですよ。それでね、要はミキサーとかが使えない中で、ザルだけで漉して作れるかとか。そういうレトルトの肉じゃがとかあるじゃない？

橋 ペースト状にできるか。

G やっぱり糸こんにゃくが残っちゃうよねとか。あと石油ストーブでお湯炊いたりして温めてどこまでできるかとか、そういうのをやって、結果やっぱり、それに対応してるやつを買わないとダメだよーってなって。PTAで備蓄買ってたじゃないですか。アレルギー対応とペースト食みたいなやつを翌年から買うようになった。ああいうのって結構賞味期限が短いから、それもちゃんと見込んで。

橋 でも買い直すタイミングで毎回見直しをかけてくれればね。私たちがPTAの役員で言い出した頃って、本当にカンパンだったんだもん。しかもプールの倉庫に入って、鍵がかかるシャッターで、ああここではダメだって。ここに置いといたって意味がないってこともわかって、じゃあやっぱり建物内に置かなきゃダメですねって。災害が起きた時に取り出せるところがどこなんだっていうことも、ちゃんとやってくれて。

G その後たぶん引き継いで、入りきらないからか、外のイナバの物置みたいなやつにも入れて、建物内にも入れて、体育館の上のあそことかにも賞味期限が切れた水とかを入れて、それで毎年1回役員全員が先生と一緒に「ここに何があります」をツアーでちゃんと確認するっていうのを引き継いでやってました。

橋 やってくれるようになったんだ。以前は私が「どこに置いてますか？」って聞いても、その時に役員会に出てた先生たちはわかんなくて。徐々に毎年そういうふうになってくれるようになったね。大事大事。

G その試しにやった時の話だけど、やっぱりうちの息子も肉じゃがのレトルトとか食べなかったんですよ。あと缶詰のパンとかも結構モサモサするから、何種類か試して。他にも来てた自閉症のお子さんも、食べない物ってやっぱりあった。そしたら家でも、非常食も食べるものを置いとかないと意味ないから、賞味期限が近づいてきたらなるべくそれを開けて食べれるようにはしてるけど。

橋 ローリングストックね。

G 缶詰のパンとかも、食べるだろうって思っちゃうよね。今のってそんなに固くないし、食べれるだろうって。

橋 改善されましたよね、震災のあととどんどん。

G ね。昔は本当にモソモソで固くて。だけど災害時だったら食べるだろう、お腹が空けば食べるだろうって思っても……

橋 私たちの子どもは、それでも食べれなかったりする。

G だってこの間の講演会の録音聞き直したら、日詰先生がおっしゃってたのは、沿岸部とかで、本当に何日ももう一切食べないお子さんのために、これだったら食べるみたいなものを、ヘリコプターで運んだみたいな話が出てました。

橋 本当。初めて聞いた。でもそういうことだもんね。うちみたいにもう水分とれなくなる人もいたら、食べないし飲まないしではね。

G うち最近水分とりすぎ……いますよね、水飲みすぎの人。水飲みすぎになってきた。なんか絶対問題出てくる(笑)

橋 年齢とともにさ、これがクリアになったら次のことが起きて……

G そう、クリアしないでも増えるんだよ。

橋 ね。だってほら、受験じゃないけど、そういうタイミングもあるじゃない？機能の高い人たちは受験もするよね。そのあと18歳のタイミングで就労に。生活介護だとしてもよくよく選んで決めたいし。親は、そのうち落ち着いたら何か自分のことができるかなとか思っても、私もずーっとこれをやりたいやりたいって胸の中で思ってきたけど、できなかつたんだもん。それどころじゃないって。

G でもね、こうやって形になってすごい。震災直後でも、子ども会の役員になってるお母さんたちとかは、その子ども会向けに支援の品が大量に届いたりっていうのは結構あったみたいなんだけど、結局その100世帯くらいいる子ども会の会員にどう分ける？みたいな感じになったらしく、呼ばれて行ったら、集会所で「みかん1個かバナナ1本かどれか選んでください」みたいなね。

橋 生モノなんだ。

G すごい考えに考えて、役員さんたちがどうやったら均等にみんなに渡るかをその個数と人数で考えたんだと思うんですよ。みかんだったら2個で、バナナだったら1本とか、例えばね、3択とかで、あの混乱の中でそんな……大変だったと思うんですよ。あと納豆とかもあったような。納豆1パックずつとかさ。たぶん工場が停電しちゃって、お勤めの方がどうしようもなく、とかだと思うんですけど。納豆1パックとかがあったのを記憶してます。でもそういう町内会の役員さんとかも、地震の翌日ぐらいから奔走して集会所でガソリンをかき集めて、発電機回して、でも私はそれ1日2日気づかなかつたんですよ。何の音だろうと思って行ってみたら発電機の音で。

橋 ガソリンで使うんだ。

G そう、それを役員さんが本当に奔走してかき集めてくださったみたいで。それで集会所の中でテレビがついてニュースが見れて、あと順番で1時間だけ充電させてくれたりとか、電気ポットを自分の家から持って行ってお湯沸かして持って帰れたりっていうのをやってくれて。その時の役員さん、本当に大変だったと思うんですよ。うちに当たってたらできたかって言われたら……うちは主人が公務員だから仕事に行ってるし、息子がいて、下にもっとちっちゃいのがいて、役員に当たってたら私できたのかなとか思って。本当に何もできないよなっていう思い。子ども会の役員も結局引き受けたりしなかつたんですよ。子どもが在籍してたことはあるけど、何もできないんだっていう思いが本当に。

橋 もちろん他の地域の方の話だけど、地域の役員さんみたいのがあって、じゃあ炊き出しだってダダッと集まったんだって。だけどその場に集まった他のお母さんが「私こんなことできない、こんなことやってらんない」って言い出して、それでみんなハツとなって、「そうだ」って、母たちがみんな「それどころじゃないんだ私たち」っていうので、結局戻ったって。「だけどいったん私たち集まったんですよ、義理堅く」とかって言った。

G 実際動いて、それが続いちゃうとたぶんすごい大変だったかなと。

橋 絶対できないや。

G 無理。だから放デイが復活した時、本当にありがたいと思ったし。

橋 医療の人たちも、本当にありがたい。家に帰れないで病院に詰めたりとか。避難所になっちゃった学校の先生た

ちは帰れないで詰めてなきゃならなかったし。

G 地震の翌朝から娘3人を叔母に預けてっていうその私の友人もそうだし。だからまあ気楽な立場だからこそ、多少余裕があって子どもと接することができてたかなは思うけど。

橋 でもとりあえず、弟ちゃんもまだ入園してない段階で一緒にいたのも大きかった。

G そうなんです、肌身離さずの時期なんでね。

橋 その時に2カ所ってもしなっていたら……。幼稚園とかは近場だろうけど、もしお兄ちゃんのほうがスクールバスで支援学校にいたら、すごい大変だったよね。

G そう、大変だったと思う。今はね、次男の通っている学校がお兄ちゃんの施設の目の前だから。

橋 そうなの？

G そうなの。だからよく朝に行って、忘れ物をしたって言ってLINEが来て届け物させられたりするんだけど。でも自分が動けるうちはいいけど、車とかもあと何年運転できるのかなとか。まあその頃は送迎を回ってくれるようになるかもしれないけど、送迎回ったからって地震の時はやっぱり自分で行かなきゃいけない。だから施設を選ぶ時に、自宅から徒歩で行けることを条件に探してたっていう方もいて。地震で結構影響が大きかった友達、仙台市内だけのお家建て直したんですよ。お庭にヒビが入ったかなんかして。その人はもう徒歩で行けるところ、みたいな。

橋 徒歩で行けるとこにあれば……。

G その方は運よく徒歩で行けるところに息子さんが「ここに行きたい」って言ったみたいで。

橋 やっぱり送迎がすごく大事なポイントだよ。みんな選ぶ時に。

G だから今となっては「地震が来たらこう対応します」っていろいろあると思うけど、震災の時にどうするかをちゃんと明文化してるところ、してないところもあったと思うんですけど。夏に「むすび塾」の時に、皆さんで震災の時に息子さんがどうだったかみたいな話をした時に、やっぱり施設や事業所さんでその日も預かってくれる、お家が近い家でも職員の方がお家まで来て「今晚は施設の方で泊めますから」ってわざわざ言いに来てくださったっていう施設もあったりとか。

橋 えー、初めて聞いた。

G マンションの結構上のほうの階で、もうお家がひどいことになって大変だったので、それで助かったっていう話もあったし、2、3日迎えに行けなかったって方もいらして、でもその間ずっと預かってくださって。その間、連絡だって容易にはつかなかったと思うんですよ、電話も。

橋 そうだよ。

G 電話って電気がないと話せないんだねって（笑）

橋 ご自宅の電話もそうだし。

G 携帯もだけど。

橋 充電ね。

G 通じにくかったですよね。

橋 いやー、通じなかったよ本当に。

G auだったらとか、ソフトバンクだったらとかって…。

橋 直後だけドコモは電話がつながり。本当に短い間ね、メールもできた。でもやっぱりつながらなくなったし。放デイは？

G うちはその時は週に1回だったのかな、お世話になってたの。でも週1回でも本当にありがたかった。本当にその時にスーパーに並んで買い出ししましたね。

橋 私も、鶴ヶ谷の放デイの時に預けて、鶴ヶ谷の生協に並んで。みんな外に並んで、建物なんかヒビが入ったりとかあったから、お客様を中に入れられないのでって。一人何点まで、「何がほしいですか」って。

G あったあった。

橋 「じゃあオムツと、これとこれと」って。紙ものはどんどん先になくなって行って、「おわりです」とか「もう打ち切り出す」とか。えーじゃあ何が買えるの？って。「ウェットティッシュはありますか？」「もうないです」……。

G そうだ、紙ものもうちすごい備蓄してて、オムツの人がいたからさ、ウェットティッシュもいっぱいあったから、お皿とかは全部おしりふきで拭いてた。

橋 ああでもウェットティッシュだ、同じだよな。

G そう、本当に何でも、顔から手から全部。

橋 助かるさ。体拭きってことよね。

G でもなんか、時期も真夏じゃ無いからですけど、洗濯って全然毎日しなくていいじゃんって思いませんでした？
あの時（笑）

橋 そうだねー（笑）

G 地震の時に一緒にいたお母さんがね、「私たちが毎日やってた洗濯ってなんだったんだろう」って。うちは2人とも食べこぼしがすごく多い、まだ下も3歳だし、食べこぼしが多いから結構汚したけど、別にね、そんなに洗わなくても。そしてなぜか、こういう時だからしゃんとしなきゃと思ったのか、認知症の姑もしゃんとしてて、変なこと言わなかった。まあ洗濯機何回も使おうとしたとかはあったけど、何か盗まれたとかはそういうのは言わなくて、すごいしゃんとしてたし、3歳の次男は、夜のオムツがなかなか外れなかったの。でも急にね、「お母さん僕パンツで寝る」って翌日ぐらいに急に言い出したから「わかった」って言って。でも全然おねしょするわけなんですよ、洗濯できないのに（笑）

橋 それはそっか、するのね（笑）

G でも本人は、大変な状況だから僕しっかりしなきゃいけないとかって思ったんでしょうね。

橋 思ったんだ。「オムツ買えるのかなー」みたいな会話とかを小耳を挟んだかもしれないし。

G オムツはあったんだけど、夜はオムツ履かせてたんだけど。なんかね、本当にもうまんまと全然おねしょしてる。でも天気良くてあったかい時期が続いてたじゃないですか。

橋 あのあととね。当日は寒かったけどね。

G だから窓際に全部干して、洗えないままシーツとかも干して。そして長男もね、おねしょされたら困るからと思ってオムツ履かせて寝たのに、なんかはみ出してて、布団濡らしたりとか。もうだんだんどうでもよくなるような（笑）もう乾かしてそのまま使うみたいな。

橋 だって洗えないんだもんね。

G うん。そして次男も、全部パンツ消費しちゃったんですよね、ちびちびおしっこもらして。お兄ちゃんの履かせたりとか、ちょっとのやつはもう乾かしてもう1回履かせますみたいなことをやってましたね。何でもここへ来て急にそんなこと言い出すんだらうって思ったんですけど、なんかやっぱりしゃんとしなきゃって人間思うんでしょうね、ああいう時ね。姑がしゃんとしてたのはすごい助かった。

橋 弟くんも、僕もちゃんとして。

G 思ったんだと思う。「お母さん、今日僕パンツで寝る」って、キッパリ言われた。

橋 お母さん大変そうだからって思ったのかな。

G なんかしっかりしなきゃって。その気持ちは大事にしなきゃいけない、って思ったのかな。

橋 えらいね。私だったら「いやいやもうちょっと大丈夫だよ、4月から卒業しようね」とかってオムツ履かせただろうな（笑）

G 全然おねしょしてるじゃん、みたいなさ。「干しまーす」みたいな（笑）感じでした。

橋 それはね、笑い話にできるね。

G うん。

橋 本人がさ、弟くんが結婚する時とかにお嫁さんに話して聞かせる（笑）

G たしかに。相手見つかるといいなーっていう。

橋 おかしい。いろいろあるね。みんないろいろ見て、何か感じてんだね。

G 感じてますね。

橋 だからそれこそやっぱり会話ができていなくても、うちの子どもたちも感じてるんだよね。ものすごく感じ取って。

G 空気読めないとかよく言われるけど、逆にめっちゃ読んで、読み過ぎてるって私は思います。

橋 読んでどうしていいかわからないことを発信できない。

G そうですね。だから、理由はわからなくても、やばいとか大変とかどうしようみたいな、焦りとかも全部キャッ

チしてる。だっていつも、よりによってなぜ今日？っていう日に体調崩されたりとか多いじゃないですか。

橋 そう、母がお出かけする日は、体調崩しがちだよ。すごい隠してるんだけど。バッグとかも見せないで、次の日着る服とかも見せないようにしてるんだけど、感じてる。

G ちょっと楽しそうなんじゃないですか、やっぱり。漏れちゃってるんじゃないですか（笑）

橋 ね（笑）

G だから、一番の肝は、ちゃんと説明する。

橋 そうね。もうちょっとキーワード的に……。

G わかんないと思ってても、情報は求めている。だからわかるように説明することと、できれば「書いて」ですよ。あと普段からやる、が大事。やってるかって言われると……。

橋 肝に銘じてね。

G 普段からやってないと、突然はできない。やっぱり訓練しないとだなんて思いました。だからこの間の能登地震も、NHK で特集やってましたよね。障害者施設の。見ました？

橋 見てない。

G 障害者施設の困ってる様子が特集になってる番組があって。結局もう建物の損壊もあったり断水もあったりで、結構高齢の方の多い障害者の施設が、施設内の体育館とかだったのかな、とにかくただでさえ環境の変化に弱い方たちが大変なことになってる。食べ物は支援物資しかなくて、やっぱり咀嚼とか嚥下とかいろいろあって食べれない方もいたりする中で、飲み込めない人にパンとかカップラーメンとか……健康上のあれもあるし、なかなか摂取できないとかもあるしみたいな。やっぱり精神的な不安定を起こしてる方もいるし、すごい大変な状況だったんですよね。そして小学校高学年か中学校くらいの自閉の息子さんとお母さんが、避難所にいられなくて転々として、ちょっと経緯はわかんないけどその施設に今は滞在させてもらってたんだけど、2次避難みたいな話が出て、ここも断水だっというので、また移らなきゃいけないみたいな話だったのかな。

橋 絶対大変だよ。

G 絶対大変。

橋 まだ家にいられた、それこそ本人が一番安心できる場所にいられた私たちでもさ、それでも……。

G それでもこれだけね。だから……。

橋 家にいられなくなった状況の人たちが、今回の能登でも絶対いるはずなんだから。

G 津波のことを考えなければ、東日本よりも、揺れの大きさと建物損壊はもう能登のほうが数段ひどかったじゃないですか。

橋 地域的にほら、瓦屋根をよしとする地域でね。

G そう、重そう。こうやって倒れて。

橋 瓦職人さんたちのまちね。

G それプラス、地形がっていうので、行けないみたいな。

橋 道路が寸断されちゃうから助けにも行けないしね。そこから逃げていく……逃げていくっていても、うちの子どもたちは避難所にも行けないような人たちだからね。

G たぶんお家が崩れなくても住めないっていう状況の方がいっぱいいるじゃないですか、今回は。お家も古かったりとかすると、もう安全性がね。

橋 実際電気と水がなかったり、ただ雨風凌ぐためだけに……だけど崩れてくるかもしれないところにいなきゃならない。

G そう、いられないと思う。結構余震が多いですよ。

橋 ずっとね。

G その中でも絶対自閉症の人は一定数いるわけだし。

橋 3.11 の時も、避難所に行ったけどいられなくて出てきて、家もダメで、車中泊を何日かしたっていう方がいたから、そのうちそういう話も集めたいなと思って。でも私も始めたばかりみたいなものだから、徐々にね、そういう沿岸部の人とかも実際お会いできることがあれば、話して、どうだったか聞きたい。別にまとめて研究するとかさ、そういうことではないけど、生の声は残したい。

G その人の言葉でっていうかね。ありがとうございます。こんな活動をしていただいて。

橋 とんでもない、私のほうこそ。ありがとうございます。

G まだ何もしないで燻っている身とすれば、いやー、偉いと思って。